大学入学共通テスト試行調査 2018.11　国語

全体概要

制限時間　100 分　**配点**　200 点＋記述式の評価点　**大問数**　５大問	
出題分野	現代文（論理的文章・文学的文章）、古文、漢文
難易度　※対現行センター試験	やや難
解答形式	記述式＋マーク式
主な特徴　※対現行センター試験	・第１問で記述式が出題された。 ・５大問全体を通じて、複数の文章・資料を比較検討し、情報を整理し筋道立てて説明する力が求められている。

全体出題傾向

◆複数の形式で提示された情報を分析・整理・統合する思考力を求める試験

単一の問題文の読解力を求める従来型のセンター試験に比して、今回の「大学入学共通テスト施行調査問題」は、新たに加わった記述解答形式の第１問をはじめ、第２問［論理的文章＝評論］、第３問［文学的文章＝詩・エッセイ］、第４問［古文］、第５問［漢文］まで、問題文以外の資料を提示し、さまざまな形で複数資料の情報を整合する力を求めている。近年のセンター試験より文章量は少ないが、全問をしっかり解くのは手間がかかる。

対策

◆正確に読解する力・複数資料を比較検討する力・設問に正しく解答する力

「国語」である以上、論理的文章や文学的文章および現代文・古文・漢文を問わず、単一の文章を正確に読みきる基本的な読解力を十分に鍛えるのは当然。その上で、一定の意図で提示された複数の資料を整合的に読み解く力、設問意図にかなう解答を構想し正しく表現する力を伸ばす必要がある。日常の学習では、過去に読んだ文章と話題・内容が関連する文章に遭遇したら、その比較を試み、結果を簡略にまとめておくなどの方法が有効。

大問別コメント

第１問（※記述式は出題されないことになったが、参考までにそのまま残しておく）

従来にない記述解答形式に注目が集まるが、主題が関連する複数の文章を整合的に読み解く力が求められている点でも「新形式」である。問１・２は、従来型の評論読解法によって解答内容を想起できるが、解答の主眼の置きどころとそれを採点官に正しく伝えるべくいかに表現するかについては訓練が必要。左に加えて、問３は、記述字数が多くかつ複数の条件に適合させるべく表現の工夫が必要で、試験時間内で解答をまとめるのは厄介。

第２問

広報的資料・法的文章・評論・図表という、複数の形式で示された情報の整合力をはかる点で、従来型のセンター試験と異なる「新形式」問題。設問でも、問１・２・３・５は従来型の評論読解力を問うが、問４・６は評論文中の説明と図表・資料とを整合する力を求めている点で「新形式」が認められる。各選択肢文は短いが、正答するには複数資料中の情報を分析・整理・統合する思考が必要で、この思考に慣れていないと時間がとられる。

第３問

詩とエッセイという、形式の異なる文章を問題文として提示する、従来のセンター試験になかった問題。作者が同じでも形式の違う文章の整合作業は読解の難度を上げる。また本問題が時・場・心の「変化」を読解させる要素が少ない点でも、従来のセンター小説問題と異なる。表現の技法や効果を問う問６は従来型を継承する問題。こういう形で、文学的な文章を、主観的に感情移入せず、客観的に評価する力が求められているのは従来どおり。

第４問

総じて高校生が難解と感じる「源氏物語」中「宇治十帖」は、初見で厄介な印象を抱かせる出典。問１～問４は、文章全体の内容を問う近年のセンター試験と同じ傾向。単語や文法の形式的理解にとどまらず、それらを文脈整合的に運用する力が求められ、難度は高い。問５は新形式。対話中から正しい和歌解釈を探す設問。問題文・引き歌・「遍昭集」の解釈に加えて教師・生徒の意見と、複数の情報を読み比べる力が求められており、これも難解。

第５問

「猿飼いの親方」と「猿」とのやりとりを描いた二つの文章［「荘子」現代語訳と「郁離子」原文］からの出題。二つの文章は特に問５と関連し、いわゆる新形式の一つ［生徒の対話の中の空所内容を問う形式］によって、語彙力および内容展開や筆者の主張の読解力が問われた。形式こそ目新しいが、求められる「漢文力」は従来のセンターと大きく変わらない。問１～問４も従来型。問４が文脈整合が求められる点でやや難しいが、他は基本問題。